

令和7年度 前期 教育アンケートから

令和7年9月
京都市立七条小学校
校長 新田 淳

7月に実施しました「教育アンケート」にご協力いただきありがとうございました。今回は、約60%（対児童数）の方々から回答をいただきました。

今年度も質問項目に京都市の学校教育の重点や本校の学校経営方針に基づいた内容のものを取り入れ、また、児童と保護者のアンケート項目を連動させてすることでそれぞれの視点で同じ内容を振り返ることができるようにしました。

A…できている・よい・思う・わかる 等 B…大体できている・まあ思う 等
C…あまりできていない・あまり思わない 等 D…できていない・思わない 等

※全てのアンケート結果は[こちらから](https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/files/104500/doc/169784/5768237.pdf)

<https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/files/104500/doc/169784/5768237.pdf>



だれもが楽しみ、意欲的に

本校では「だれもが楽しみ、意欲的に学び合う七条小学校」という学校教育目標を掲げています。昨年度までと少し言葉を変えましたが、大切にしていることは変わりません。目指す姿をより具体的に共有できるよう、分かりやすい表現にしました。

その中でも「楽しみ」という視点を重視しています。数年前から、学校生活の楽しさに関する満足度が十分ではないと感じていたことが、その理由の一つです。

今回のアンケートでは、「学校生活を楽しんでいますか」という質問に対し、A/B（思う／だいたい思う）と答えた児童は92.7%で、前回（令和6年度後期）より2.8ポイント増加しました。R5年度に再度追加した時と比べると、約8ポイントの上昇です。特に、児童のA（思う）の割合は12ポイント以上増加しています。



一方で、保護者の回答は、児童に比べてA（思う）の割合が20ポイント以上低い傾向が見られます。これは、家庭では学校生活の楽しさだけでなく、不安や悩みも子どもが話していることを示していると考えられます。逆に言えば、子どもたちからのプラス面もマイナス面のどちらの発信もしっかり受け止めていただいている証拠だと思います。

そうやってご家庭で受け止めてくださっているからこそ、子どもたちは学校で安心して過ごせています。何かあったときも、家庭で支えてもらえるという安心感が、子どもたちの心の安定につながっています。これからも、「楽しい」という気持ちを、学習意欲や達成感、充実感と結びつけ、家庭と連携しながら子どもたちが意欲的に学び合える学校づくりを進めていきます。



ICT を使ってよりよい学習を



ICT に関する質問では、児童と保護者の回答に大きな差が生じました。「ICT を使って、学習をよりよいものにしていますか。」と言う質問について、児童の肯



定的な回答は 93% だったのに対し、保護者は、69% でした。R6 後期と比較すると、児童は、2 ポイント近く上昇しています。2 年前のアンケートと比べても、A (できている) は 12 ポイント以上増加しています。一方で、保護者の方は、9 ポイント以上減少しました。このように、肯定的回答の割合や推移において、児童と保護者に大きな違いが見られたのです。

学校では、多くの授業で GIGA 端末を活用し、観察や記録、発表など、学習活動のツールとして効果的に使っています。しかし、家庭ではその効果が見えにくいのではないかと考えられます。昨年度も長期休業以外での持ち帰りをあまり実施できず、また、今年度は端末更新に伴い、家庭で活用できなかったことも影響しています。これは学校としても反省点です。

2 学期からは新しい iPad を導入し、子どもたちは意欲的に活用しています。今年度は「KYOTO×教育 DX ビジョン」の計画期間の 3 年目でもあります。

ねらいにもある「子どもたちがデジタルならではの強みを理解し活用」「自分らしい学びを実現」できるように、家庭とも協働しながら、ICT 活用の取組をさらに充実させていきたいと思います。



ことばでつながる学びへ

本校では、校内研究のテーマを「よく聞き、すすんで話す子」とし、授業の中で子どもたちが互いの思いや考えを出し合い、学びを深めることを目指しています。

今回のアンケートで「自分の思いや考えを、話したり聞いたり書いたりして、相手にわかるように伝えていますか」という質問に対し、約 85% の児童が「できている」と答えました。前回よりわずかに減少しましたが、別に実施した「話し方・聞き方アンケート」でも、聞く姿勢や発言への意欲に関する質問で 85~95% の児童が肯定的な回答をしています。こうした結果から、授業を通して「聞くこと」「話すこと」への意識は着実に高まっていると感じています。

一方で、保護者アンケートでは「できている」と答えた方は 21.5% にとどまり、児童の 45.2% と比べるとかなり低い結果となりました。教職員や保護者の方からは「もっとできるようになってほしい」という期待が大きいことがうかがえます。しかし、子どもたち自身が高い自己評価をしていることは、成長の証であり、前向きな傾向といえます。



コミュニケーション能力が育つことで、子どもたちは自分の考えを自信をもって表現できるよう



るよう、今後も、言語活動をさらに充実させ、より高いコミュニケーション能力を育む授業づくりを進めていきます。

安全への意識を高め、行動化を

「お金のかしかりをしたり、くらくなっても公園で遊んだり、子どもだけで校区外へ行ったりする…など、事件、トラブルにつながる行動はしていませんか。」という質問では、ほぼ100%の児童がA/B（できている/大体できている）と回答していました。テレビだけでなく、インターネットやSNSなど、子どもたちを取り巻く情報は非常に多く、社会全体でも防犯意識が高まっています。ご家庭での声かけや見守りが、この結果につながっていると考えられます。

しかし、子どもたちはまだ判断力が十分ではなく、思わぬ行動をとることがあります。近年は、予測できない事件や事故、これまで想像できなかった危険も増えています。情報や知識だけでは防ぎきれないこともあるため、子どもたち自身が状況を判断し、自分の命を守る力を身につけることが大切です。

学校でも授業や研修を通して知識を獲得するだけでなく、実際の体験を通して身を守る力を育てるべく、様々な場面を想定した避難訓練や実地訓練、マニュアル整備などを通して、「命を守りきる」ための取組を日々積み重ねています。この取組こそ、ご家庭との連携が欠かせません。子どもたちの命を守るため、引き続きご協力をお願いいたします。

あったらいいな…こんなもの

教育アンケートとは別に、「今、学校にあったらいいな」と思うものを、予算や場所を度外視して自由に書いていただきました。

その中で、圧倒的に多かったのが製氷機、冷水器、冷風機など、「熱中症対策」に関するご意見です。特に体育館や上階の空調に関する希望が非常に多く寄せられました。

この回答を受け、PTA本部役員の皆様と協議し、スポットクーラーを購入することになりました。今年の猛暑で全国的に品薄状態の中、いろいろな方が奔走してくださり、先日、5台のスポットクーラーが学校に届きました。

早速、体育館や4階の廊下で稼働させると、子どもたちがスポットクーラーの周りに集まり、涼しさを喜ぶ姿が見られました。

その他にも、花壇や「ホッとできるスペース」、「教室で遊べるグッズ」など、さまざまな視点からご意見をいただきました。すべてを実現することは難しいですが、他の質問項目も含め、子どもたちが楽しく、安心して過ごせる学校づくりの参考にさせていただきます。

お忙しい中、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

になり、相手の意見を尊重しながら協力して課題を解決する力を身につけます。こうした力は、学習面だけでなく、友達関係や将来の社会生活にも大きな影響を与えます。互いに認め合い、支え合う集団づくりにもつながり、一人ひとりが安心して学び合え

事件、トラブルにつながる行動はしていませんか。

